

シリーズ 『地球温暖化ってなに？』 その5

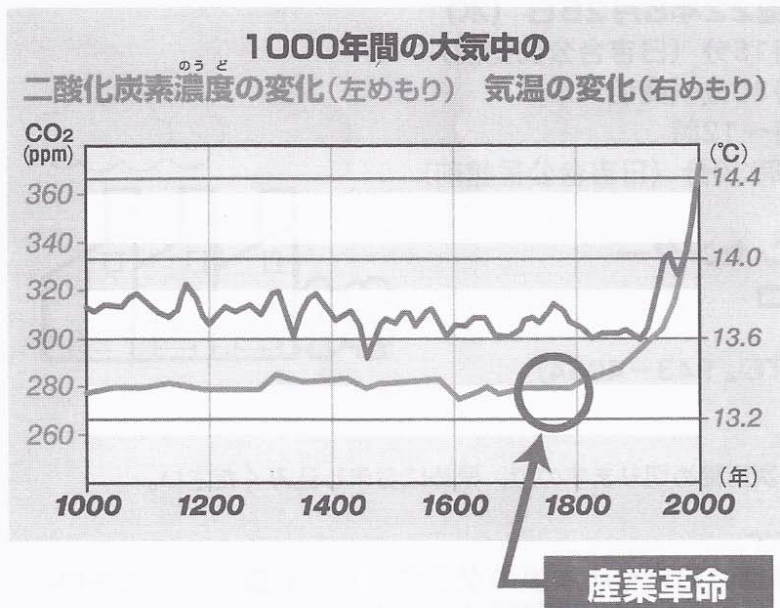
問 温暖化はいつ始まったの？

答 18世紀後半に起こった「産業革命」がきっかけです

18世紀半ば（1700年代の中頃）、イギリスで新しい技術が次々と開発され、人や動物の力に頼っていた産業が、機械の力によって成り立つようになっていきました。これが「産業革命」とよばれる出来事です。産業革命で最も大切な技術革新は「動力」でした。蒸気機関をはじめとする機械の動力を支えたのが石炭、そして石油、天然ガス（LNG）などの「化石燃料」です。

特に19世紀後半から、これらの燃料を燃やして得られるエネルギーを大量に使う豊かで便利な社会が世界中にどんどん広がっていきました。そして大気中の二酸化炭素がそれまでにない勢いで増え続け、人類は「地球温暖化」問題をかかえることになったのです。

■ 急速に増えた大気中の二酸化炭素



大気中の二酸化炭素は、エネルギーの大量消費が始まる産業革命までのおよそ1万年間は、280ppm程度で安定していました。それが2005年には379ppmに達しています。これだけ短い時間で急速に変化したことは、地球の歴史の中で、一度もありませんでした。

【ppmピーピーエム】

「100万分の1」という意味の単位です。パーセント（%）になおすと、1ppmは0.0001%。つまり、379ppmは0.0379%と同じです。

ppmは環境問題ではよく使われる単位です。

■ 化石燃料の大量消費

【化石燃料】

大昔の動物や植物の死骸が地中に堆積し、地中の熱や圧力を受けて長い年月の間に変成してできた燃料のことで、『石炭』『石油』『天然ガス』などがあります。石炭は植物から、石油や天然ガスは動物からできたといわれています。大昔の生物からできた燃料なので『化石燃料』とよびます。化石燃料は自然が長い年月をかけて作り出したもので、無限にあるわけではありません。また、人間が作り出すこともできません。